

東京
春祭

20th
Spring Festival in Tokyo

ラ・ボエーム

東京春祭
プッチーニ・シリーズ
vol.5

演奏会形式／字幕付

Tokyo-HARUSAI Puccini Series vol.5

La Bohème

(Concert Style / With Subtitles)

プッチーニ 歌劇《ラ・ボエーム》(全4幕)

上演時間：約3時間(休憩2回含む)

指揮：ピエール・ジョルジョ・モランディ

Conductor: Pier Giorgio Morandi

ロドルフォ：ステファン・ポップ

Rodolfo: Stefan Pop

マルチェロ：マルコ・カリア

Marcello: Marco Caria

ショナール：リヴィュー・ホレンダー

Schaunard: Liviu Holender

ミミ：セレーネ・ザネッティ

Mimi: Selene Zanetti

ムゼッタ：マリアム・バッティステッリ

Musetta: Mariam Battistelli

コッリーネ：ボグダン・タロシュ / 他

Colline: Bogdan Talos / etc.

管絃楽：東京交響楽団

Orchestra: Tokyo Symphony Orchestra

合唱：東京オペラシンガーズ

Chorus: Tokyo Opera Singers

児童合唱：東京少年少女合唱隊

Children Chorus: The Little Singers of Tokyo

児童合唱指揮：長谷川久恵

Children Chorus Master: Hisae Hasegawa

2024

4.11 18:30
[木]

4.14 14:00
[日]

東京文化会館 大ホール

April 11 [Thu.] 18:30 / April 14 [Sun.] 14:00 Tokyo Bunka Kaikan, Main Hall

11月12日[日]10:00発売 SY25,500 AY21,500 BY17,500 CY14,000 DY10,500 EY7,500 U-25Y3,000

※U-25は2月15日[木]12:00発売(公式サイト限定取扱)

※ライブ・ストリーミング配信のネット席(有料)に関する情報は2月頃発表予定。

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 助成：公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

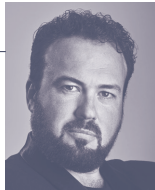
ラ・ボエーム

(演奏会形式/字幕付)

演奏会形式だからこそより一層心に響く —— ブッチーニ随一の旋律美
19世紀バリを舞台とした「青春群像劇オペラ」として、世界で最も愛されるオペラのひとつ《ラ・ボエーム》。ロドルフォには次代のパヴァロッティと謳われ世界中の聴衆が熱望するテノール、ステファン・ポップ、ミミには、「儚く詩的な美しさを理想的に表現する」と定評のあるセレーネ・ザネッティ、もう1組のカップル、マルチェッロとムゼッタにマルコ・カリアとマリyam・バッティステッリと今が旬の歌手らが揃います。指揮は、2022年の東京春祭ブッチーニ・シリーズ《トゥーランドット》での好演が記憶に新しいピエール・ジョルジヨ・モランディ。オペラを得意とする東京交響楽団とイタリア歌劇のスペシャリスト・モランディ、豪華歌手陣による《ラ・ボエーム》、どうぞご期待ください。

ステファン・ポップ/ロドルフォ(テノール) Stefan Pop/Rodolfo(Tenor)

ルーマニア・ビストリツァ生まれ。クルジュ=ナポカのゲオルゲ・ディマ音楽アカデミー卒業。主なレパートリーは、《楳姫》アルフレード、《リゴレット》マントヴァ公爵、《仮面舞踏会》リッカルド、《シモン・ボッカネグラ》アドルノ、《アッティラ》フォレスト、《マクベス》マクダフ、《ナブッコ》イズマエーレ等。ベルリン国立歌劇場、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウス、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場、マドリードのテアトロ・レアル等の主要歌劇場で歌い、日本でも定期的に客演している。



©Giacomo Orlandi

セレーネ・ザネッティ/ミミ(ソプラノ) Selene Zanetti/Mimi(Soprano)

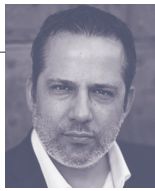
イタリアの若手ソプラノ。パドヴァのポリニ音楽院を優秀な成績で卒業。シエナのキジアーナ音楽院、ソフィアの新ブルガリア大学他でも学ぶ。バルセロナのテノール・ピニャス・コンクールやケープタウンのペルヴェデーレ・コンクール他で入賞・受賞。バイエルン国立歌劇場で研鑽を積む。ヴェネツィアのフェニーチェ劇場、シュトゥットガルト州立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、パレルモのマッシモ劇場等に出演。シャンゼリゼ劇場で《ラ・ボエーム》を歌った。



©Elena Cherkashyna

マルコ・カリア/マルチェッロ(バリトン) Marco Caria/Marcello(Baritone)

イタリア・サルデーニャ生まれ。サッサリの音楽院、サンタ・チェチーリア音楽院で学ぶ。2002年のデビュー以来、ローマ歌劇場、バルマのレージョ劇場、ヴェネチアのフェニーチェ劇場、ヴェローナのフィラルモニコ劇場、ポロニヤ市立劇場、パレルモのマッシモ劇場、サル・プレイエル、パービカン・センター、バルセロナのリセウ大劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、シンシナティ・オペラ、ブエノスアイレスのテアトロ・コロコン、マスカット王立歌劇場、東京文化会館等に出演。ウィーン国立歌劇場で《ラ・ボエーム》を歌った。



マリyam・バッティステッリ/ムゼッタ(ソプラノ) Mariam Battistelli/Musetta(Soprano)

エチオピア生まれのイタリア人ソプラノ。マントヴァの音楽院を優秀な成績で卒業。国際オペラ・コンクールで注目を集める。2018年ウィーン国立歌劇場アンサンブルに加入し、20年夏まで在籍。《ラ・ボエーム》ムゼッタ、フンパーディンク《ハンゼルとグレーテル》グレーテル、《魔笛》パミーナ等演じ、クリスティアン・ティールマン、アダム・フィッシャー、スベランツァ・スカップッチらと共演。最近の出演は、ミラノ・スカラ座、グランドボーン音楽祭、トゥーロン歌劇場、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とのモーツァルト(レクイエム)等。



©Monarca Studios

リヴュー・ホルンダー/ショナール(バリトン) Liviu Holender/Schaunard(Baritone)

オーストリア出身のバリトン。幼少の頃からオペラに親しむ。ウィーン国立音楽大学でクラリネットを、ウィーン音楽院でピアノを、さらに2013年からはウィーン国立音楽大学でカール・ハインツ・ハンザーに音楽を学ぶ等、幅広い音楽教育を受けた。ミュンヘンのゲルトナー・ブラッツ州立劇場やフランクフルト歌劇場のアンサンブルメンバーとして数多くの役を歌う。主な客演に、ミラノ・スカラ座、フランクフルト五月音楽祭、東京・春・音楽祭、ラトビア国立歌劇場、ブカレスト国立歌劇場、プレザンツ音楽祭他、多数。



©Salzburger Festspiele Wildbild Doris Wild

ボグダン・タロシュ/コッリーネ(バス) Bogdan Talos/Colline(Bass)

注目の若手シリアス・バス。クルジュ=ナポカのゲオルゲ・ディマ音楽アカデミーを2005年に卒業。権威ある声楽コンクールで入賞。ルーマニア各地の歌劇場を皮切りに、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ライオン・ドイツ・オペラ、オーストリアのザンクト・マルガレーテン音楽祭等に出演。近年、《リゴレット》モンテローネと《トゥーランドット》役人でパリ・オペラ座に、《ワイガロの結婚》フィガロ役ハンブルク州立歌劇場にそれぞれデビュー。ドレスデン・ゼンパー・オーパーで《夢遊病の女》ロドルフォ(オルフェオ)カロンテを歌った。



©Andreas Endermann

ピエール・ジョルジヨ・モランディ(指揮)

Pier Giorgio Morandi (Conductor)

ミラノ・スカラ座管弦楽団の首席オーボエ奏者を10年間務めた。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲を学び、ザルツブルク・モーツァルトウムでライトナーに指揮を師事。スカラ座在籍時にムーティ、パターネのアシスタント指揮者としてイタリア・オペラの指揮法を学ぶ。ローマ歌劇場副首席指揮者、ハンガリー国立歌劇場首席客演指揮者、スウェーデン王立歌劇場首席客演指揮者等を歴任。ブリュッセル・モネ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、フランクフルト歌劇場、ウィーン国立歌劇場等、欧州の主要歌劇場に多数出演。



©Elena Cherkashyna

東京交響楽団(管弦楽)

Tokyo Symphony Orchestra (Orchestra)

1946年、東宝交響楽団として創立。文部大臣賞他、日本の主要な音楽賞を受賞。音楽監督ジョナサン・ノットのもと川崎市・新潟市と提携し、コンサートやアウトリーチ活動を展開。「こども定期演奏会」等の教育プログラムでも注目されている。新国立劇場のレギュラーオーケストラとしてオペラ・バレエ公演を担当。海外公演も数多く行なう。ITへの取り組みでも音楽界をリードしており、2020年にニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、22年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信した。

東京オペラシンガーズ(合唱)

Tokyo Opera Singers (Chorus)

1992年の《さまよえるオランダ人》公演に際して「世界的水準のコーラスを」という小澤征爾の要請を受け、東京を中心に活躍する中堅・若手の声楽家により組織。東京・春・音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本(現セイジ・オザワ 松本フェスティバル)を中心に活動。ムーティからも高い評価を得ており、共演は計7回を数える。シカゴ響、ウィーン・フィル、バイエルン国立歌劇場等とも共演。2018年の上海国際芸術祭、20年の北京国際芸術祭「相約北京」等にも参加。

東京少年少女合唱隊(児童合唱)

The Little Singers of Tokyo (Children Chorus)

西洋伝統音楽にもとづく音楽教育を目的に1951年設立。レパートリーは広く、グレゴリオ聖歌から現代作品、同声から混声合唱作品までをカバー。現代作曲家への委嘱作品も現代。国内外の楽団・歌劇場と多数共演。創立65周年プロジェクトではマカオとイタリアの各地で公演を開催。サン・ピエトロ大聖堂の新年ミサでフランシスコ・ローマ教皇のもと全世界の聖歌隊と共に平和祈願を捧げた。2021年に創立70周年を迎え、連続演奏会「70周年記念コンサートシリーズ2021-2023」を実施、去る7月にサントリーホールで最終公演を開催した。

東京春祭 2024 3月15日(土) - 4月21日(日)
東京・春・音楽祭
SPRING FESTIVAL IN TOKYO
春が訪れ桜がひらいて
音楽が始まる 上野の森に

東京の春の訪れを、音楽を介したお祭りで祝う ——

明治以来、日本における文化・芸術の集積地として発展を続けてきた上野の杜を舞台に、桜の季節に開催する音楽祭です。20回目の春を迎える2024年も、国内外から一流アーティストが集い、演奏会形式のオペラや室内楽、歌曲リサイタルをはじめ、美術館・博物館でのミュージアム・コンサートなど充実したラインナップでお届けいたします。その他、お子様に楽しんでいただけるプログラムや、上野界限やオフィス街、街角での小さな無料のコンサート「桜の街の音楽会」も予定。心躍る春を様々な音色で彩ります。



東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス

www.tokyo-harusai.com
座席選択可 ご利用には登録(無料)が必要です。

バラエティに富んだサービスをご用意しております。

※サービスの対象となる公演や席種・枚数は限定されております。

- お買い物カゴ(おまとめ予約)
- トリオ・チケット
- U-25
- 電子チケット(チケットれずQ)
- 公式プログラム付チケット

各サービスの詳細やチケットの申込みはこちらから



[その他プレイガイド]

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (オペレーター)
チケットぴあ https://w.pia.jp/t/harusai/

[お問合せ]

東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202

営業時間:月曜、水曜、金曜、チケット発売日 10:00~15:00

音楽祭開催期間中は土・日・祝日も含め全日営業(10:00~19:00)

※公演に関するお問合せにお答えいたします。※オンライン・チケットサービスのご利用について、ご案内いたします。※サポートデスクではチケットのご予約は承りません。※車椅子席をご利用の方、企業・学校団体での鑑賞をご希望の方は03-5205-6443(東京・春・音楽祭実行委員会事務局)までお問合せください。

●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。●掲載の内容は2023年11月13日現在の情報です。●記載しているチケット料金はすべて消費税込みの金額です。●公演中止の場合を除き、出演者・曲目変更による払戻しは致しませんので、あらかじめご了承ください。●チケット代金のお支払い後、お客様のご事情による変更・キャンセルは承りません。●営利目的のチケットの転売はいかなる場合でも固くお断りします。正規の方法以外でご購入いただいたチケットのトラブルに関して、当実行委員会はいかなる責任も負いません。